

「成人の日」記念行事あり方検討委員会 開催規模別比較表【資料2】

検討要素	横浜アリーナ(現行)	区ごとの開催(公会堂・学校等)	中学校区ごとの開催 (中学校体育館等)
想定される実施方法	横浜市及び実行委員会が主催し、横浜アリーナにて2回開催する。	各区役所と横浜市が共催し、区ごとに公会堂等の会場を確保し実施する。	主に連合町内会等が主催し、中学校区ごとに、中学校の体育館等で実施する。
新成人にとって	・市全体で祝ってもらっているという意識になる。 ・成人の日にアリーナに行くことは、一種のステータス ・規模が大きすぎて会場内で友達に会えない可能性がある。	・転居した人や私立の学校の友達には会えない可能性がある。 ・高校・大学の友達とは一緒に出られない可能性がある。	・身近な住民に祝ってもらえることができ、地域の中で成人することが自覚できる。 ・中学校の友達に会うことができる。 ・転入者や私立中学校出身者が参加しづらい。 ・高校・大学の友達とは一緒に出られない可能性がある。
会場	・市内最大の屋内収容施設(14,550人) ・式典等には最適	・公会堂等では、3～4回の開催が必要な区がある。 ・高校の体育館等を借用できれば、2回開催で実施可能 ・結局、アリーナ・文体等も使用する可能性がある。	・一会場300人程度のため、1回で収容可能 ・145会場にも及ぶ
経費概算	2,500万円	使用する施設によって、経費の増減が生じる。	145会場で開催されるため、大幅増が見込まれる。
運営	・教委が主催 ・全体が把握しやすい ・最小限の人員体制で実施可能 ・運営ノウハウがある。	・区が主催 ・全区の把握困難 ・区の業務量急増	・全会場の把握困難 ・区又は中学校の業務量急増 ・会場毎の運営組織が必要
警備誘導	・一会場のため一元管理可能 ・退場時の出口の混乱 ・滞留多く警備・誘導員多数必要	・1000人レベルでの入退場時の混乱 ・リスクが18会場に拡大する。	・敷地外での誘導計画不要 ・リスクが145会場に拡大する。
周辺状況	・駅に近く(4分)便利 ・至近距離に参加者集中 ・環状2号線の交通渋滞等 ・交通規制の必要あり	・会場周辺の混乱 ・路上駐車の可能性大 ・会場によっては駅から遠い ・周辺住宅地への影響大	・居住地から徒歩で参加可能 ・周辺住宅地への影響大 ・会場によっては駅から遠い ・滞留スペースは校庭利用化 ・地域住民からの監視効果
その他	・横浜らしさのアピール ・参加者にとってステータス感あり	・区の力、個性の発揮 ・18区の実施体制の確立が困難 ・会場毎のクレーム、トラブル増	・地域の力による「手作り感」・「連帯感」の醸成 ・行政と地域の役割分担や実施体制の確立が困難 ・会場毎のクレーム、トラブル増 ・トラブル時の責任の所在 ・私立卒業生・転入者等の割振